

タイトル 「ロータリーで“郷の玄関口”をデコレート」

訴求ポイント

“街区”を形成するみち、地域を繋ぐみち、その道中には様々な顔がある。古代のみち、中世のみち、近世のみち。様々な歴史・経済・文化を運びながら、今日の2みち“は高速道路網から里道に至るまで、多くの役割を担いながら構成されている。

こうした道路の役割の中で、規格の高い道路は案内標識や沿道整備も相応に手当てされており、一般市民レベルからの改善提案には規制も多く容易ではないが、交通量の少ない地方、特に中山間地域の道路に対しては地域活性化策と連動した道の改善提案は、工夫の余地があるとみられる。

この点に着目して、いわゆる“集落”としてイメージされる地域単位（ここでは郷と称する）の出入り口部に、地域住民のアイデアによる地域シンボルとなるロータリーをつくり、住民の維持管理によって運営し、来訪者へのサイン・もてなしの向上を図り、ひいては地域の活性化に貢献していくことを提案する。



“郷”のイメージ



“ロータリー”のイメージ

かつては

日本の道とまちの発展の歴史には、古代官道と道標、中世街道と宿場町があり、宿場町にはその出入り口である“構口（かまめぐち）”があった。

また、近世においては鉄道の駅前にロータリーが多くつくられたが、地方部の鉄道利用の減少とも相俟って地域のシンボルとしての認知度は低下してきている。

これらの道や遺構は、町の発展・変遷とともにその機能を変えてきているが、都市部においては保存整備の動きも出てきており、新たな拠点として歴史散策などの学習の場として活用されている。



旧街道の道標



整備された黒崎宿東構口



郷づくりをロータリーから

候補地の選定

道路条件

交通量などの道路機能上問題の少ない地方部の道路で、比較的まとまった集落があるエリア。

地域資源

地域の人々が大切にし、次世代へ継承していく地域資源やイベントの存在。

また、来訪者におもてなし感をもたせるような資源活用

担い手

高齢者から子供まで、また産官民・地域が一体となって、企画・創造・維持管理・更新できるような環境づくり

その効果

地域資源のPR、地域間交流の向上

関連ビジネスの展開

地域内のコミュニケーション、世代間交流の活発化

後継者の育成

などなど



こんな郷の入り口ができるといいね！！

